

梅雨対策(野菜)

梅雨期の高温多湿な気候は、生長期の農作物に病気や害虫をもたらす原因となります。水管理を徹底してよりよい農作物作りを目指しましょう。

長雨による過度な水分は野菜の根の伸長をさまたげます。そうすると、茎や枝、葉といった地上部の大きさと地下の根の大きさのバランスがくずれ、病気にかかりやすくなります。多湿に弱いトマト、大根、ゴボウ、カボチャなどは特に排水に気をつけてください。また、作物の下葉や枯葉を取り除いたり、間引いたりして風通しや採光を図ってください。育てた野菜を雨の被害から守るためにも、しっかり梅雨対策をしましょう。

対策

① 圃場の排水

圃場内に雨水が停滞し、畝間に水が溜まらないように排水溝を設け、排水対策を徹底しましょう。排水の悪い畑では高畝にすることも排水を良くする一つの方法です。逆に水分が少ない場合も、高畝は水分保持という点ですぐれています。



② 土の飛散防止

激しい降雨によって土が飛び散り、葉や茎に付着すると病気になりやすくなります。マルチなどの資材や敷きわらで植物の根元を覆い、土壌中の菌が葉や茎に飛ばないように、土の飛沫を防ぎましょう。降雨により根が露出した場合には土寄せを行ってください。



③ 雨よけ栽培

ビニールなどを使った雨よけ栽培は、特にトマトに用いると病気の発生を抑えるだけでなく、食味を良くする効果もあります。また、覆っているビニールの採光を高めるため被覆資材の汚れは取り除くとともに、風通しをよくしてください。



農薬使用の注意点

◆ 農薬を使用する際は、次のことを守って正しく使いましょう。

1. 農薬ラベルをよく読みましょう

ラベルには、農薬使用基準のほか、使用上の注意事項や環境への影響等必要な情報が表示されていますので、使用前に必ず読みましょう。

2. 農薬の使用基準を守りましょう

農薬の適用内容を確認し、散布できる作物や使用時期、使用方法、使用量または希釈倍率・散布液量、総使用回数等をよく守り、安全・安心な農作物の生産に努めましょう。



3. 農薬は鍵のかかる保管庫で保管しましょう

農薬は専用の保管場所を設け、必ず鍵をかけて保管しましょう。また、除草剤は他の農薬と区別するなどして管理を徹底します。

4. 農薬の調整・散布は、防護具を身につけましょう

防護具（マスクやゴム手袋、めがね、防除衣など）は、いつも使う農薬だから大丈夫、着用が面倒だからなどと考えず、散布方法にふさわしいものを選び、使用者の安全のために必ず着用しましょう。

5. 農薬の散布後について

使用器具は、タンクやホースなどに農薬が残らないようにしっかりと洗浄し、日頃の管理を徹底します。作業終了後は、必ず顔や手足、皮膚の露出した部分などを石鹸でよく洗い、十分うがいをしましょう。

農薬希釈早見表

薬量 (g, ml)		希釈水量			
		4ℓ	10ℓ	20ℓ	100ℓ
希釈倍率	50倍	80g (ml)	200g (ml)	400g (ml)	2,000g (ml)
	100倍	40g (ml)	100g (ml)	200g (ml)	1,000g (ml)
	250倍	16g (ml)	40g (ml)	80g (ml)	400g (ml)
	500倍	8g (ml)	20g (ml)	40g (ml)	200g (ml)
	1,000倍	4g (ml)	10g (ml)	20g (ml)	100g (ml)
	3,000倍	1.3g (ml)	3.3g (ml)	6.7g (ml)	33.3g (ml)

$$1\text{回に散布する量(ml)} \div \text{希釈倍率(倍)} = \text{溶かす薬剤の量(gまたはml)}$$